



ゆずり葉

にのみや学園
二宮町立山西小学校
学校だより 第122号
☎ 0463-72-3777

遠足・校外学習のスタート！ ～目的意識の大切さと学校教育への位置づけ～

「行楽の秋」らしいさわやかな陽気が続く中、今月は3つの学年が遠足・校外学習に出かけました。子どもたちにとって、日頃の学校生活で経験できないことにかかわることができる貴重な機会です。

単なる行楽で終わらないよう、学校では、学年に応じた、事前の計画や調べ学習、予備体験など、子どもたちと事前の準備をする中で目的意識を高めていきます。

そのような意識が醸成されることによって当日、たとえば、友達とのかかわりで思いやりや集団行動・公衆道徳を学んだり、現地の係員に勇気を出して尋ねてみたり、見学や体験活動を通して壮大な自然や日常生活の便利さを実感したりと、様々なことを学んでいきます。

このような学びの考え方は、バスで遠くへ出かけるような機会だけでなく、教科学習の発展で近隣に出かける場合であっても同様です。しかし、あまたの体験的な学習の意義は理解しつつも、限られた年間の授業計画になんでも採り入れることは難しいのが現実です。時間・財政・学習内容などの視点か

ら学校教育全体のバランス、またはその中における位置づけ等を吟味したうえで、毎年、子どもたちの豊かな学びのために工夫をしています。

2年生の遠足

10月2日(水)、新江ノ島水族館に出かけました。クラスごとにバスに乗り、渋滞に巻き込まれることもなく、スムーズに到着することができました。

家族で行ったことのある人もいるようですが、クラスのみ

んなで出かけるのは格別なよう

です。記念の集合写真を撮った後はグループで行きたい場所を選んで活動しました。その後、イルカのプールで再集合し

てお弁当を食べてショーを観覧しました。

5年生の校外学習

10月4日(金)、秦野市にある表丹沢野外活動センターに行きました。当日はあいにくの天気でしたが、「協力・思いやり」「自然を楽しむ」「野外炊事の楽しさ・難しさ」などをめあて

に、この日に向けて自分たちのモチベーションを高く持ち、カ

レーづくりや焚き火などの準備をしてきました。

実際に炊事場で薪割りや焚



き火をしてみると、なかなか練習や計画のとおりにはいかず悪戦苦闘していましたが、一人一人が状況をよく見て判断し、自分たちのできることを一生懸命やっていました。

どのグループも安全に気を付けながら、みんなで知恵を絞り試行錯誤して、おいしいカレーをつくることができました。野菜の歯ごたえ、ルーのどろみなど、グループごとの味わいがありました。

午後のレクリエーションは、

室内の限られたスペースでも十分盛り上がりました。「球運びリ

レー」では、ハプニングにハラハラドキドキし、「パートナーを探

せ」では言葉を出さずにジェスチャーを駆使して確認し合うのが難しかったです。

退村式の振り返りでは、「まだ帰りたくない」という発言をはじめ、楽しさや意義を存分に感じて

いる発言をいくつも聞くことができました。

4年生の校外学習

10月9日(水)、宮ヶ瀬ダムと伊勢原子ども科学館に行きました。いつもより早く登校して8時15分には山西小学校を出発。渋滞もなく宮ヶ瀬ダムに到着しました。

「水とエネルギー館」で館長さんからレクチャー



を受けました。宮ヶ瀬ダムはコンクリートの使用量で日本一だそうです。ダムには洪水を防いだり、水道用水の確保をしたり、発電をしたりといくつもの目的があることを学びました。あいくの雨模様でしたが、観光放水のときには雨が上がり、放水の勢いを肌で感じる事ができました。

子ども科学館ではプラネタリウムの 4 年生向け特別プログラウムを鑑賞し展示室を体験しました。時間があつという間にすぎてしまい物足りない様子でした。



小中一貫教育の取組

～小・小交流、小・中接続の視点から～

未来の同級生とともに学ぶ

ラディアンホールに、町内 3 小学校の 6 年生が集まり、一緒に講演を聞く中で学び合う交流会を行いました。

講師は、明星大学教育学部教授の星山麻木先生で、さまざまな特性のある、虹色のこどもたちの感じ方・考え方を理解し、仲間同士で助け合うための方法を教えていただきました。

この講演中、子どもたちは、話の節目で自分たちの特性を振り返り、隣り合った他校の子どもたちと

共有していました。そのうえで一人一人が、自分の特性を絵本に出してくる虹色（七色）の登場人物になぞらえ、ハートマークを色づけしていききました。

最後に、その色付けた様子を有志の児童が壇上で説明してくれました。本校児童がトッパッターで上がりました。自分の特性を人前で話すのはとても勇気がいることですが、同じ学年の仲間が語ることは、会場にいる多くの子どもたちにとつてリアリティをもって聞くことのできる良い学びの場となりました。

5 年生のときに行ったエプロン製作の経験を生かし、6 年生はトートバッグを製作しました。

製作実習にあたり、保護者・地域のボランティアの方々やミシントラブルへの対応など指導補助の協力をしてくださることに、担任も指導や評価に集中しやすくなり、とても助かりました。

子どもの事実を共有した教科指導の接続

また、小中一貫教育の観点で家庭科の授業を研究するため、町内小中学校の先生方も参観されていました。授業中、中学校の家庭科の先生から個別に指導を受けている場面もありました。児童にとっては中学校の先生の雰囲気を感じ、中学校の先生にとっては来年度入学してくる生徒の実態を教科の視点で把握する良い機会となりました。



また、動画視聴による実技場面の視覚的な学習支援は、口頭や図示による説明よりも印象強く伝わるようです。特に、児童が個々に必要なとき、繰り返して視聴できること、動画の性質上、様々なことを精査して編集されたものであるため、非常にわかりやすいことが大きな特長です。今回の授業でもその威力が遺憾なく発揮されました。



本紙の詳細は、本校ホームページにも掲載されています。こちらの利用が便利!!



【山西小 HP】